

平成20年度（2008年）事業報告

（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

1. 試合の管理運営に関して

(1) 世界(23)、東洋太平洋(28)、日本(33)の別記タイトルマッチ及びその他合計275
興行(2,128試合)の試合管理を行う。〔別表1参照〕

(2) 選手、マネージャー、他ボクシング従事者に対する資格審査並びにライセンスの
発給。

ライセンスの発行数4,875 (内：外国人ボクサー187名)

(内訳) ボクサー(2,923 内女子82名)、プロモーター(96)、クラブオーナー(270)、
マネージャー(386)、トレーナー(547)、セコンド(423)、マッチメーカー(5)、
レフェリー(101)、タイムキーパー(12)、アナウンサー(10)、ドクター(98)、
進行(4)。

(3) プロボクサー新人テスト実施

《男子》受験者総数(C級)：993名 合格者：525名 (合格率52.8%)

〃 (B級)：9名 9名 (合格率100%)

【内訳】東京地区：受験者561名 合格者：286名

他4地区：受験者441名 合格者：248名

《女子》受験者総数(C級)：79名 合格者：52名 (合格率65.8%)

〃 (B級)：18名 15名 (合格率83.3%)

【内訳】東京地区：受験者70名 合格者：45名

他4地区：受験者27名 合格者：22名

※女子のみ本年度経過措置により年齢制限を緩和

(4) 日本ランキング決定、発表（月例）

(5) 試合役員研修会（東京地区月日他原則毎月、他4地区は随時）

採点基準、レフェリング（反則処置）、事故防止他。

2. 安全防護に関して

(1) ボクシング医事講習会（女子ボクシング）（2月6日、於・後楽園展示会場）

〔講師〕大槻 穰治コミッション Dr.（東京慈恵会医科大学・救急医学講座准教授）

「女性とスポーツ 女子ボクシング開始に向けて」

谷 諭コミッション Dr.（東京慈恵会医科大学・脳神経外科教授）

「頭部外傷（急性硬膜下血腫について）」

女子プロボクシングの開始に先立ち、ジム関係者に女子特有の健康問題の専門知識についての理解を深めてもらうことを主題に、男女の運動能力の違いや減量の影響による月経異常、また頭部外傷についてのメカニズムなどが詳しく講義された。また新たに創設された女子専用のルールについての説明があった。

(対象) 出席者：トレーナー、マネージャー、受験予定選手、他関係者120名。

(2) JBC・JPBA合同医事講習会（6月25日、於・後樂園展示会場）

〔講師〕 野中雄一郎コミッションDr（東京慈恵会医科大学・脳神経外科医師）

「張飛選手リング事故報告」

「急性硬膜下血腫に気をつける!!!」

大槻穰治コミッションDr（東京慈恵会医科大学・救急医学講座准教授）

「プロボクサーにおける頭部外傷の現状と対策」

宮澤一理学療法士（高崎ジムトレーナー）

「プロボクサーの試合における外傷・障害特性」

内田正一（JBCインスペクター）

「健康管理面におけるルール改正並びに試合における諸注意事項について」

5月3日、後樂園ホールで行われた6回戦でTKO負け後、急性硬膜下血腫で亡くなった張飛選手(明石)のリング事故に関する報告を基に、改めて頭部外傷のメカニズム等の専門知識についての理解を深めてもらうことを主題に開催。加えて、現役トレーナーによる選手の健康管理に関する講義や、ルール改正や試合における諸注意事項の説明も行われた。参加規模は、69ジム82名。

(3) 関西地区医事講習会（7月10日、於・大阪産業創造館）

〔講師〕 柚木孝士コミッションDr（医療法人崇孝会理事長）

「女性の一生・女性アスリートに関する問題点」

藤田敏晃コミッションDr（大阪厚生年金病院脳神経外科脳卒中担当部長）

「硬膜下血腫の初期症状と起こってしまった場合の対処法」

小田あずさ管理栄養士（明治製菓㈱ザバススポーツ&ニュートリション・ラボ管理栄養士）

「ボクサーの減量と食事について」

奥田佳延コミッションDr（多根総合病院神経内科）
「減量が身体機能に及ぼす影響」

赤井英和氏（元世界ランカー）
「体験談とアドバイス」

関西地区においても医事講習会を開催し、女子特有の健康管理や急性硬膜下血腫の対処法、選手の栄養管理の仕方などが講義され、選手のみならず業界関係者全般に対する安全管理の意識の共有が図られた。

(4) 第1回全国コミッションドクター会議（11月15日、於・ホテル日航茨木）

〔講師〕 藤田敏晃コミッションDr（大阪厚生年金病院 脳神経外科 脳卒中担当部長）
「U-15キッズボクシングの安全性」

柚木孝士コミッションDr（医療法人崇孝会理事長）
「女子ボクシングの安全性について」

大槻穰治コミッションDr（東京慈恵会医科大学・救急医学講座准教授）
「プロボクシングにおける頭部外傷の現状と対策」

谷 諭コミッションDr.（東京慈恵会医科大学・脳神経外科教授）
「負傷ストップのコンセンサス」

太平サブロー氏（吉本興業 タレント）
「外部から見たボクシング界」

全国各地事務局所属のコミッションドクターが集まり、上記講義のほかディスカッション形式で引退勧告、年齢制限、網膜剥離、スタンディングカウント等多岐にわたり医学的見地からボクシングを検証し、認識及び対処方法等の統一が図られた。

(5) リング事故

張 飛選手（明石）：5月3日後楽園ホールにおいて、迫田大治（横田スポーツ）との6回戦で6ラウンドTKO敗後、急性硬膜下血腫にて開頭手術。5月18日死去。

3. 国際交流について

(1) 国際会議に代表派遣

(a) WBA（世界ボクシング協会）第87回年次総会

（9月29日～10月3日、ドミニカ共和国プンタ・カーナ、バルセロ・ババロ・

パレス)

協議事項:

- *WBA 会長ヒルベルト・メンドサ氏 (ベネズエラ) の再選可決
- *審判委員会 (ビデオ検証・採点研修)
- *女子ボクシングに関する議論
- *チャンピオンシップ委員会
 - ・ジョン・ルイス v s ニコライ・ワルーエフ戦の問題点
 - ・タイトルプロモート権の落札価格と、それによるボクサーのファイトマネーのWBAの課税規定について
- *メディカルセミナー
- *その他

(b)WBC (世界ボクシング評議会) 第46回年次総会

(11月2日～11月7日、中華人民共和国・成都 ジンジャンホテル)

協議事項

- *会長・役員選挙 ホセ・スライマン会長再選可決
- *インスタント・リプレイとオープン・スコアリング・システム継続適用の確認
- *30日、7日前計量の徹底要請 怠った場合はボクサーに罰金
- *WBC女子会議
- *WBC年間表彰式 (一部)
 - コミッション・オブ・ザ・イヤー＝ (財) 日本ボクシングコミッション
 - コミッショナー・オブ・ザ・イヤー＝林 有厚コミッショナー
 - ドクター賞＝大槻穰治 JBCコミッションドクター
 - ジャッジ・オブ・ザ・イヤー＝森田健
- *寄付金 10月メキシコでの試合の後亡くなったダニエル・アギジョン選手の遺族へ寄付金として総額3,500ドルが寄せられた。
- *指名試合について
- *その他

(出席者) JBC 関係: 安河内剛本部事務局長、森田健理事

B・協会関係: 本田明彦 (帝拳)、鈴木正臣 (角海老宝石) 他
ジョー小泉 (リングジャパン)

(c)OPBF (東洋太平洋ボクシング連盟) 47回年次総会

(11月3日、WBC 総会場所)

2009年1月1日より日本が会長国を務めることが満場一致で決定された。
任期は2年。

(2)その他

(a)WBA、WBC、OPBF、並びに各国コミッション関係者との交流(役員来日時随時)

(b)海外でのタイトルマッチに役員派遣（内訳：WBC 5名、WBA 1名）

〔別表2参照〕

(c)国際問題の処理について

(3)海外遠征並びに来日選手の各種試合契約の承認について

4. ボクシング功労者の表彰について

(1) 2007年度プロ・アマ年間優秀選手表彰式。

1月23日東京ドームホテル（2007年12月17日選考）

プロの部9部門（13名） アマの部5部門（6名）

(2)世界王者獲得並びに各種チャンピオンの引退、他功労表彰について。

*元WBCミニマム級チャンピオン イーグル・デーブ・ジュラハン（角海老宝石）引退。

*元OPBFフライ級チャンピオン 長縄正春（岐阜ヨコゼキ）引退。

*元日本スーパー・バンタム級チャンピオン 山中大輔（白井具志堅スポーツ）引退。

*元WBAミニマム級チャンピオン 新井田豊（横浜光）引退。

*元WBC世界スーパー・フライ級チャンピオン 川嶋勝重（大橋）引退。

*WBAライト級チャンピオン 小堀佑介（角海老宝石）獲得。

*WBAスーパー・フライ級チャンピオン 名城信男（六島）獲得。

*WBCスーパー・バンタム級暫定チャンピオン 西岡利晃（帝拳）獲得。

*WBC女子ライト・フライ級暫定チャンピオン 富樫直美（ワタナベ）獲得。

*WBC女子アトム級チャンピオン 小関桃（青木）獲得。

*WBCスーパー・フェザー級チャンピオン ホルヘ・リナレス（帝拳）獲得。

(3) JBC試合役員等功労表彰

5. 機関誌の発行について

(1)ボクシング広報（月刊）

(2)ボクシング年鑑

6. 選手記録（戦績、診断の両記録カード）、ボクシングに関する資料の収集、作成並びに保存（継続）

7. その他

(1) (財)日本ボクシングコミッション 第31回定例理事会・評議員会（2月20日、後楽園飯店）

(a) 2007年度事業報告、同収支決算報告承認

(b)役員改選

（退任）

理事 : 門脇輝彦氏
評議員 : 久代信次氏・安田裕侯氏・井上通文氏・片山尚孝氏
監事 : 阿部睦治

(新任)

理事 : 久代信治氏 (東京ドーム代表取締役専務執行役員)
評議員 : 斉藤楨三氏 (東京ドーム取締役常務執行役員)
 中山喜治氏 (JBC関西事務局長)
 本田憲哉氏 (西部地区ボクシング協会会長)
 津江章二氏 (社団法人共同通信社編集委員)
監事 : 朝井正昭氏 (東京ドーム取締役常務執行役員)

(c) 寄付行為改正

① (目的) 第3条

【改訂前】

この法人は、日本におけるプロフェッショナルボクシングを管理し、健全なプロボクシングの発展を図るとともに、ボクシングを通じて、日本のスポーツの発展と国際親善に寄与することを目的とする。

【改訂後】

この法人は、日本のプロボクシングを統括・管理し、健全なプロボクシングの発展を図り、もって日本のスポーツ文化の振興と国際親善に寄与するとともに、ボクシング競技を通じて青少年の心身の健全な育成に貢献することを目的とする。

② (規律) 第4条

【新設】

この法人は、別に定める自主行動基準(倫理規定)の理念と規範の則り、前条に掲げる公益目的達成のため、公正かつ適正に運営し、もって社会的信用の維持、向上に努めるものとする。

③ (事業) 第5条

【改訂前】

第3条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) プロボクシングに関する規則の制定
- (2) プロボクシング試合の管理
- (3) プロボクシング選手の健康管理及び安全防護の徹底
- (4) プロボクシングに関する紛争の処理
- (5) 国際ボクシング団体への加盟及び国際交流の推進
- (6) アマチュアボクシング団体に対する援助
- (7) ボクシング関係功労者の顕彰
- (8) ボクシングに関する調査、研究及び資料の収集
- (9) 機関誌の発行
- (10) その他目的を達成するために必要な事業

【改訂後】

この法人は第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) プロボクシングの試合の安全管理
- (2) プロボクシングに関する規則の制定及び公式記録の作成
- (3) プロボクシング選手の健康管理及び安全防護
- (4) 国際ボクシング団体への加盟及び国際交流の推進
- (5) アマチュアボクシング等のスポーツ活動に対する支援
- (6) ボクシング競技を通じての青少年の健全育成及び地域社会におけるボクシングの普及
- (7) 現役選手並びに引退選手への就職支援等の福利厚生事業の実施
- (8) プロボクシングの選手並びに関係者の資格認定
- (9) 審判技術の研究及び審判員の育成
- (10) ボクシング関係功労者の顕彰
- (11) ボクシングに関する調査、研究及び資料の収集
- (12) ボクシングに関する機関誌等の刊行物の編集、発行
- (13) その他第3条の目的を達成するために必要な事業

④第6章

実行委員 → 評議員

⑤第7章

理事会及び実行委員会 → 理事会及び評議委員会

⑥財団法人日本ボクシングコミッション・委員会規則の制定

(d) ルール改正

① 形式面における改正

- (1) 条文の形式の統一
- (2) 用語の統一

② 内容面における改正

- (1) 新たな章の創設
 - 第20章 本部事務局長（第79条）
 - 第21章 試合役員（第80条～第81条）
 - 第22章 インспекター（第82条～83条）
- (2) 各章の全体的な配置の整理
- (3) 複雑化した規定の整理
- (4) 新たな条文の創設
- (5) 各規定の意味内容の明確化
- (6) 無意味化した制度の廃止
- (7) JBCルールに於ける視力要件の緩和

(2) (財) 日本ボクシングコミッション定例理事会（12月5日、後樂園飯店）

(a) 2009年度事業計画

- (b) 2009年度収支予算
- (c) 新公益法人制度に基づくJBCの方向性について
- (d) 報告事項

(3) 物故者

- (a) 丹羽春夫（第3代JBCコミッショナー）1月5日死去（99歳）
- (b) 関光徳（横浜光ジム会長）6月6日死去（66歳）
- (c) 小倉一春（JBC評議員）10月13日死去（78歳）

(4) 紛争処理

(5) JBC/JPBA(ボクシング協会) 合同会議

(6) アマチュア関係者との協議

年間優秀選手表彰選考。アマチュアとの交流について。

(7) 処分

- (a) 坂本大輔（角海老宝石）ボクサーライセンス6ヶ月間停止（3月6日付）
平成19年12月21日傷害事件を起こし、罰金刑に処されたため。
- (b) 阿部秀樹（全日本パブリック：セコンド）を嚴重注意処分とする。（4月3日付）
平成20年3月27日牧島洋介（国際）対岩崎健二（全日本パブリック）の試合において、試合中にリング内に立ち入ったため。
- (c) 青山朋彦（角海老宝石：ボクサー）を嚴重注意処分とする。（6月3日付）
平成20年6月2日後樂園ホールにて行われた4回戦終了後（判定負け）、コンタクトレンズの使用が発覚したため。
- (d) 保住直孝（ヨネクラ）ボクサーライセンス無期限停止処分（6月24日付）
平成20年2月23日、東京都内において公務執行妨害を起こし、有罪判決を受けたため。
- (e) 矢島拓也（ヨネクラ）ボクサーライセンス無期限停止処分（6月24日）
平成20年4月11日、東京都内において公務執行妨害並びに傷害事件を起こし起訴され、公務執行妨害事件について有罪判決を受けたため。
- (f) 米倉健司（ヨネクラ：クラブオーナー）を嚴重注意処分とする。（6月24日付）
ボクシング界の信用を著しく貶める結果となったジム所属の2選手の事案につき、クラブオーナーとしての監督責任は免れない。
- (g) 金平理宰（グローバル協栄）プロモーターライセンス無期限停止処分（7月7日付）
平成20年5月24日に東京都内において予定されていた自らプロモーターを務める興行を、自身の都合により興行前日に中止し、ボクシング界の信用を著しく貶めたため。

(h) 伊藤博文（相模原ヨネクラ：ボクサー）を厳重注意処分とする。（12月22日付）

平成20年12月22日に後楽園ホールにおいて行われたスーパー・ライト級8回戦に、公式試合において使用を禁じられている水絆創膏を使用して出場したため。

(I) 幡野光夫（相模原ヨネクラ：クラブオーナー）を厳重注意処分とする。

クラブオーナーとして、所属ボクサー伊藤博文の指導監督責任を怠ったため。

[別表1]

(1) 世界タイトルマッチ (29 ※海外で行われた世界戦を含む)

- 1 WBC世界バンタム級 (1月10日 大阪府立体育会館第1競技場)
○長谷川穂積 (真正) ●シモーネ・マルドロット (イタリア)
- 2 WBA世界バンタム級 (1月10日 大阪府立体育会館第1競技場)
○ウラディミール・シトレンコ (ウクライナ) ●池原信遂 (大阪帝拳)
- 3 WBA世界スーパー・フライ級 (1月14日 横浜文化体育館)
○アレクサンデル・ムヨス (ベネズエラ) ●川嶋勝重 (大橋)
- 4 WBA世界ミニマム級 (3月1日 後樂園ホール)
○新井田豊 (横浜光) ●ホセ・ルイス・バレラ (ベネズエラ)
- 5 WBC世界フライ級 (3月8日 両国国技館)
○内藤大助 (宮田) ●ポンサクレック・ウオンジヨカム (タイ)
- 6 WBA世界フライ級 (3月29日 幕張メッセ国際展示場8ホール)
○坂田健史 (協会) ●山口真吾 (渡嘉敷)
- 7 WBA世界ライト級 (5月19日 ディファ有明)
○小堀佑介 (角海老宝石) ●ホセ・アルファロ (ニカラグア)
- 8 WBA世界スーパー・フェザー級 (6月12日 日本武道館)
○エドウィン・バレロ (ベネズエラ) ●嶋田雄大 (ヨネクラ)
- 9 WBC世界バンタム級 (6月12日 日本武道館)
○長谷川穂積 (真正) ●クリスチャン・ファッシオ (ウルグアイ)
- 10 WBC世界ライト・フライ級 (6月14日 メキシコ・メキシコシティ)
○エドガル・ソーサ (メキシコ) ●國重隆 (大阪帝拳)
- 11 WBC世界ミニマム級 (6月18日 タイ・プーケット)
○オーレトーン・シスマチャイ (タイ) ●戎岡淳一 (明石)
- 12 WBC女子世界ライト・フライ級暫定王座決定戦 (7月13日 韓国)
○富樫直美 (ワタナベ) ●金 珍 (韓国)

13WB A世界フライ級（7月30日 国立代々木競技場第一体育館）

○坂田健史（協栄）

●久高寛之（仲里・ATSUMI）

14WB C世界フライ級（7月30日 国立代々木競技場第一体育館）

○内藤大助（宮田）

●清水智信（金子）

15WB C女子世界アトム級（8月11日 後樂園ホール）

○小関桃（青木）

●ウィンユー・パラドーンジム（タイ）

16WB C女子世界ライト級王座決定戦（8月11日 後樂園ホール）

○アン・マリー・サクラート（USA）

●風神ライカ（山木）

17WB A世界スーパー・ライト級（9月13日 ウクライナ）

○アンドレアス・コルニク（ウクライナ）

●木村登勇（横浜光）

18WB A世界スーパー・フライ級王座決定戦（9月15日 パシフィコ横浜）

○名城信男（六島）

●河野公平（ワタナベ）

19WB C世界スーパー・バンタム級暫定王座決定戦（9月15日 パシフィコ横浜）

○西岡利晃（帝拳）

●ナーポン・ギョットティサックヨークチャイ（タイ）

20WB A世界ミニマム級（9月15日 パシフィコ横浜）

○新井田豊（横浜光）

●ローマン・ゴンサレス（ニカラグア）

21WB C世界フェザー級（10月16日 国立代々木競技場第一体育館）

○オスカー・ラリオス（メキシコ）

●栗生隆寛（帝拳）

22WB C世界フェザー級（10月16日 国立代々木競技場第一体育館）

○長谷川穂積（真正）

●アレハンドロ・バルデス（メキシコ）

23WB A世界フェザー級（10月24日 後樂園ホール）

○クリス・ジョン（インドネシア）

●榎洋之（角海老宝石）

24WB A世界バンタム級（10月30日 パナマ・フィガリ）

○アンセルモ・モレノ（パナマ）

●ロリー松下（カシミ）

25WB C世界スーパー・フェザー級王座決定戦（11月28日 パナマ・パナマシティ）

○ホルヘ・リナレス（帝拳）

●ワイベル・ガルシア（パナマ）

26WB C女子世界アトム級（12月8日 後楽園ホール）

○小関桃（青木） ●金慧珉（韓国）

27WB C女子世界ライト・フライ級暫定（12月8日 後楽園ホール）

○富樫直美（ワタナベ） ●菊地奈々子（白井具志堅スポーツ）

28WB C世界フライ級（12月23日 両国国技館）

○内藤大助（宮田） ●山口真吾（渡嘉敷）

29WB A世界フライ級（12月31日 広島サンプラザホール）

○坂田健史（協栄） ●デンカオセーン・シンワンチャー（タイ）

(2) 東洋太平洋タイトルマッチ（29 ※海外で行われたものを含む）

1 バンタム級（1月27日 石川県産業展示館）

○ロリー松下（カシミ） ●アルド（インドネシア）

2 スーパー・フェザー級（2月2日 後楽園ホール）

○内山高志（ワタナベ） ●山崎晃（六島）

3 ウェルター級（2月16日 後楽園ホール）

○佐々木基樹（帝拳） ●レブ・サンティリャン（石神井スポーツ）

4 スーパー・フライ級（2月16日 後楽園ホール）

○河野公平（ワタナベ） ●相澤国之（三迫）

5 ミニマム級（3月9日 名古屋国際会議場）

○和賀寿和（畑中） ●ヨードーイ・シッスーイ（タイ）

6 フェザー級（4月5日 JCBホール）

△榎洋之（角海老宝石） △粟生隆寛（帝拳）

7 フライ級（4月14日 後楽園ホール）

○大久保雅史（青木） ●鄭真綺（韓国）

8 ミドル級（4月19日 後楽園ホール）

○佐藤幸治（帝拳） ●バンバン・ルサディ（インドネシア）

- 9 スーパー・ウェルター級（4月22日 後楽園ホール）
○日高和彦（新日本木村） ●柴田明雄（ワタナベ）
- 10 スーパー・ミドル級暫定王座決定戦（4月26日 後楽園ホール）
○清田祐三（フラッシュ赤羽） ●ズルフィカル・ジョイ・アリ（フィジー）
- 11 スーパー・フライ級王座決定戦（6月7日 後楽園ホール）
○富山浩之介（ワタナベ） ●ラシン・キャットプラーソンチャイ（タイ）
- 12 スーパー・フェザー級（6月12日 日本武道館）
○内山高志（ワタナベ） ●阪東ヒーロー（ファミリーフォーラム）
- 13 ミニマム級（6月15日 名古屋国際会議場）
○和賀寿和（畑中） ●ファビオ・マルファ（比国）
- 14 ウェルター級（6月21日 後楽園ホール）
○佐々木基樹（帝拳） ●ダルシム・ナンガラ（インドネシア）
- 15 バンタム級（8月2日 比国 セブ市）
○ロリー松下（カシミ） ●ガーオナー・クローンパジョン（タイ）
- 16 フライ級（8月16日 後楽園ホール）
○大久保雅史（青木） ●有富康人（松田）
- 17 ミドル級（9月6日 後楽園ホール）
○佐藤幸治（帝拳） ●江口啓二（姫路木下）
- 18 ライト級（9月20日 後楽園ホール）
○ランディ・スイコ（比国） ●荒川仁人（八王子中屋）
- 19 スーパー・フライ級（9月20日 後楽園ホール）
○富山浩之介（ワタナベ） ●相澤国之（三迫）
- 20 スーパー・ミドル級王座統一戦（10月13日 後楽園ホール）
○清田祐三（フラッシュ赤羽） ●ウェイン・パーカーJr（オーストラリア）
- 21 フェザー級（10月18日 後楽園ホール）
○細野悟（大橋） ●真教杉田（畑中）

- 22 スーパー・フェザー級（11月1日 後楽園ホール）
○内山高志（ワタナベ） ●文炳柱（韓国）
- 23 ライト・フライ級（11月3日 博多スターレーン）
○和田峯幸生（筑豊） ●スリヤー・クローンパジョン（タイ）
- 24 スーパー・ウェルター級（11月15日 後楽園ホール）
○日高和彦（新日本木村） ●丸元大成（グリーンツダ）
- 25 ミニマム級（11月16日 名古屋国際会議場）
○黒木健孝（ヤマグチ土浦） ●和賀寿和（畑中）
- 26 ウェルター級（12月6日 後楽園ホール）
○佐々木基樹（帝拳） ●レブ・サンティリャン（石神井スポーツ）
- 27 ライト級（12月20日 後楽園ホール）
○石井一太郎（横浜光） ●ランディ・スイコ（比国）
- 28 フライ級（12月23日 両国国技館）
○大久保雅史（青木） ●ジョジョ・バルドン（比国）
- 29 バンタム級（12月31日 広島サンプラザ）
○サーシャ・バクティン（協栄） ●金成國（韓国）

(3) 日本タイトルマッチ (33)

- 1 スーパー・フェザー級王（1月5日 後楽園ホール）
○小堀佑介（角海老宝石） ●松崎博保（協栄）
- 2 スーパー・ライト級（1月19日 後楽園ホール）
○木村登勇（横浜光） ●松本憲亮（ヨシヤマ）
- 3 級ミドル（2月10日 高砂市総合体育館）
○江口啓二（姫路木下） ●鈴木典史（ピストン堀口）
- 4 級ライト・フライ（2月11日 後楽園ホール）
△嘉陽宗嗣（白井具志堅スポーツ） △國重隆（大阪帝拳）

5 スーパー・フライ級 (2月16日 後楽園ホール)

○河野公平 (ワタナベ) ●相澤国之 (三迫)

6 バンタム級 (2月24日 名古屋国際会議場)

○大場浩平 (大スペースK) ●三谷将之 (高砂)

7 ライト級王座決定戦 (3月15日 後楽園ホール)

○石井一太郎 (横浜光) ●中森宏 (平仲ボクシングスクール)

8 スーパー・ウェルター級 (4月2日 後楽園ホール)

○石田順裕 (金沢) ●川崎タツキ (草加有沢)

9 ミニマム級 (4月2日 後楽園ホール)

○黒木健孝 (ヤマグチ土浦) ●三澤照夫 (帝拳)

10 スーパー・バンタム級 (4月5日 JCBホール)

○下田昭文 (帝拳) ●山中大輔 (白井具志堅スポーツ)

11 フェザー級 (4月5日 JCBホール)

△粟生隆寛 (帝拳) △榎洋之 (角海老宝石)

12 フライ級 (4月14日 後楽園ホール)

○清水智信 (金子) ●吉田健司 (笹崎)

13 ウェルター級 (4月20日 宮崎県体育館)

○沼田康司 (トクホン真闘) ●湯場忠志 (都城レオスポーツ)

14 スーパー・ライト級 (5月3日 後楽園ホール)

○木村登勇 (横浜光) ●山本大五郎 (金沢)

15 スーパー・フェザー級王座決定戦 (5月17日 後楽園ホール)

○矢代義光 (帝拳) ●森田陽久 (新日本仙台)

16 ミドル級 (6月7日 後楽園ホール)

○江口啓二 (姫路木下) ●小松学 (ワタナベ)

17 ライト・フライ級 (6月9日 後楽園ホール)

△嘉陽宗嗣 (白井具志堅スポーツ) △須田拓弥 (沼田)

- 18 バンタム級（6月15日 名古屋国際会議場）
○大場浩平（大ースペースK） ●児玉卓郎（岐阜ヨコゼキ）
- 19 ミニマム級（6月30日 後楽園ホール）
○黒木健孝（ヤマグチ土浦） ●鈴木誠（野口）
- 20 ライト級（7月5日 後楽園ホール）
○石井一太郎（横浜光） ●川瀬昭二（松田）
- 21 フライ級暫定王座決定戦（8月2日 後楽園ホール）
○五十嵐俊幸（帝拳） ●金城智哉（ワタナベ）
- 22 スーパー・フェザー級（9月6日 後楽園ホール）
○矢代義光（帝拳） ●松崎博保（協栄）
- 23 ウェルター級（9月9日 後楽園ホール）
○沼田康司（トクホン真闘） ●山口裕司（JBS SPORTS）
- 24 スーパー・ウェルター級王座決定戦（9月22日 大阪府立体育館第一競技場）
○野中悠樹（尼崎） ●古川明裕（ワールド日立）
- 25 フェザー級王座決定戦（10月4日 後楽園ホール）
○松田直樹（帝拳） ●澤永真佐樹（赤城）
- 26 スーパー・バンタム級（10月4日 後楽園ホール）
○三浦数馬（ドリーム） ●下田昭文（帝拳）
- 27 バンタム級（11月16日 名古屋国際会議場）
○大場浩平（大ースペースK） ●川端賢樹（姫路木下）
- 28 ライト・フライ級（11月30日 沖縄コンベンションセンター）
○嘉陽宗嗣（白井具志堅スポーツ） ●家住勝彦（レイスポーツ）
- 29 スーパー・フライ級王座決定戦（12月17日 後楽園ホール）
○中広大悟（広島三栄） ●杉田純一郎（ヨネクラ）
- 30 スーパー・ライト級（12月20日 後楽園ホール）
○木村登勇（横浜光） ●西尾彰人（姫路木下）

31 フライ級王座統一戦（12月23日 両国国技館）

○清水智信（金子）

●五十嵐俊幸（帝拳）

32 ミドル級（12月23日 大阪府立体育館第2）

○鈴木哲也（進光）

●江口啓二（姫路木下）

33 スーパー・ウェルター級（12月27日 アルカイクホール・オクト）

野中悠樹（尼崎）

●音田隆夫（一力）

〔別表2〕海外でのタイトルマッチに役員派遣

（内訳：WBC 5名、WBA 1名、OPBF 0名）

- 1 WBCヘビー級オレグ・マスカエフ対サミュエル・ピーター戦（3月8日 メキシコ・カンクン）に森田健ジャッジ。
- 2 WBAヘビー級ニコライ・ワルーエフ対ジョン・ルイス戦（8月30日 ドイツ・ベルリン）に島川威ジャッジ。
- 3 WBCバンタム級挑戦者決定戦ウィラポン・ナコンルアンプロモーション対ブシ・マリンガ戦（6月12日 タイ・バンコク）に金谷武明ジャッジ。
- 4 WBCウェルター級アンドレ・ベルト対スティーブ・フォーブス戦（9月27日 アメリカ・ロサンゼルス）に浦谷信彰ジャッジ。
- 5 WBCヘビー級サミュエル・ピーター対ビタリィ・クリチコ戦（10月11日 ドイツ・ベルリン）に森田健ジャッジ。
- 6 WBCクルーザー級王座決定戦ルドルフ・クレイ対ジャコーベ・フラゴメーニ戦（10月24日 イタリア ミラノ）に福地勇治レフェリー。